

## 相 双 地 方 推 進 本 部 ( 霜 月 )

地方推進本部・地方農業圏確立推進協議会等・農林業団体・農業事業者等の活動状況

### **新たに19名のエコファーマーが誕生！！(大熊町)**

11月4日に、JA大熊町においてエコファーマー(持続性の高い農業生産方式導入計画)の認定証交付式が行われ、JA大熊町蔬菜(そさい)生産部会16名とJAフレッシュおおくま直売所の3名の19名が新たにエコファーマーとして認定を受けました。

双葉農業普及所の常磐 甫所長よりエコファーマー認定証を手渡された19名の方々は、今後、ブロッコリーやハウレンソウ、キャベツ等6品目について同生産方式で栽培に取り組みます。

これで、相双管内のエコファーマーの認定者数は、147名になりました。(双葉普及所)



### **農用地集積に向けた検討会を開催(小高町)**



11月6日に、請戸川土地改良区管内の農用地集積推進事業検討会が小高町の浮船文化会館で開催されました。

検討会には、小高、浪江、双葉の三町の小高南部、双葉東部などほ場整備事業9地区の生産グループや営農組合などから約70人が出席しました。

同土地改良区副理事長の江井 績小高町長のあいさつの後、事業負担金の軽減や作業受委託による農用地集積と作付け団地化の工夫、農用地の相続などの説明や生産グループがそれぞれ実践例や課題などを報告し、他地区での取り組みについて県相双農林事務所との情報交換を行いました。(農村整備部)

### **食農教育「緑の学校」を開催！(富岡町)**

「地域で作付されている園芸作物の栽培体験を通じて野菜づくりに、興味を持ってもらい、土に親しむことで農業後継者育成に務めよう。」と双葉農業普及所が企画し、富岡町とJA南双葉との共催により行われてきた食農教育「緑の教室」が、11月8日に第3回目を開催し、ブロッコリーの収穫体験を行いました。



この日は、富岡一小、二小の五、六年生約30人とその保護者らが参加し、立派に成長したブロッコリーをうれしそうに収穫しました。早速、マヨネーズを付けて試食、7月から種まき、定植作業など”自分たちの野菜”と

して生育状況を見守ってきただけに、おいしさ、喜びともひとしおの様子でした。  
(双葉普及所)

### **相双地方農業経営基盤強化促進会議を開催（小高町）**

11月11日午前に、小高町保健福祉センターにおいて、相双農林事務所、管内市町村、農協等の関係者により、相双地方農業経営基盤強化促進会議を開催しました。会議では、認定農業者の育成と農地流動化の推進のため対策等について、意見交換及び検討がなされたほか、新地町より同町岡地区における農用地利用改善団体の設立事例が紹介されました。

また、11月、12月の両月は農業経営基盤強化月間に当たり、新たな米政策への取組においても関連することから、関係者の強い連携を持って相双地方の地域性に即した対策を講じていくことを再確認しました。(農業振興部)

### **地域水田農業ビジョン策定に向けた検討会を開催（小高町）**

11月11日午後に、小高町「浮船文化会館」において、新たな米政策改革に伴う地域水田農業ビジョン策定に関する検討会を相双農林事務所、管内の市町村、農協等の関係者により開催しました。

会議では、国の米政策改革の概要や福島県水田農業改革アクションプログラム(案)及び関連施策等について意見交換がなされ、地域水田農業ビジョン策定に関する問題点等について検討が行われました。

また、今後の対応についても、関係者が連携して迅速に対応していくことを再確認しました。

相双地方の地域性と将来を見すえた農業振興に向けて、関係者一同で地域水田農業ビジョンの策定に取り組んでいます。(農業振興部)

### **「相双の<sup>もり</sup>森林・川・海を育てる会」による川の森林ボランティアを開催（楢葉町）**

11月15日に、豊かな郷里の森林・川・海を後世に伝えるために地域住民とボランティア等の参加による積極的な森林づくりの運動を展開している「相双の<sup>もり</sup>森林・川・海を育てる会」が川の森林ボランティアを楢葉町で開催しました。

当日は、約70名が参加し、「緑の文化財に指定されている」大滝神社の「ぢいスギ・ばあスギ」周辺の刈り払いや倒木の玉切り・集積、ゴミ拾い等を行いました。



また、ボランティア作業終了後、木戸ダムの建設現場や鮭の築場を見学し、木戸川流域環境への理解を深めました。(森林林業部)

### 「フレッシュ農業ガイド講座を開催（原町市）」



11月26日、原町市の相馬農業高等学校において、農業高校の生徒に農業・農業者を身近に感じてもらうこと目的として、毎年行われているフレッシュ農業ガイド講座を開催しました。

今年は、「農業の魅力ってなんだろう？」というテーマで、農業高校1～3年までの学生17名が、3グループに分かれ、地域の青年農業者クラブ“ A . C . ハマーズ2001 ”のクラブ員との意見交換を行いました。“ つくることの喜び ” や “ 拘束されない自由な感覚 ” 等の意見が多かったようです。はじめのうちは、お互いに緊張していたようですが、うち解けてくると、各グループで「将来農業をやる人・やらない人」とか「実習して楽しいこと」等、自由な話題を取り上げて、思い思いの意見交換がされていました。

（農業普及部）

その他・トピック事項

### 幻の高級魚 ” ホシガレイ ” の養殖成功！！（大熊町）

原子力発電所の温海水を活用してヒラメ等を育てている大熊町水産振興公社は、幻のカレイと言われる高級魚「ホシガレイ」の養殖に成功し、年明けから販売できる見通しとなりました。「ホシガレイ」は、天然物の漁獲はわずかで養殖もほとんど行われていないため、一般に、その存在自体が知られていないほど希少価値が高く、1匹1～2万円の高値で取り引きされるそうです。公社では、年間約500匹の販売を見込んでおり、1キロ4,500円程度で、販売する予定だそうです。電源立地地域の特産品として期待が持たれます。

### サケづくしのグリーン・ツーリズム開催（鹿島町）

11月1日に、鹿島町都市農村交流研究会と真野川鮭増殖組合の主催により、鹿島町の真野川鮭採捕場で体験型グリーンツーリズムの実現に向けたイベントが開催されました。

昨年に続いて2度目となるこの催しは、県内各地から約30人が参加して、鮭増殖組合員の指導の下に慣れない手つきでサケをさばき、イクラを取り出し、新巻づくりやイクラ丼、各種のサケ料理に仕上げ、全員で味わいました。

### 相馬の米飯給食拡大ポスターコンクール開催（相馬市）

11月10日に相馬市役所で米飯給食拡大推進ポスターコンクールが開催されました。

コンクールは、相馬市と相馬市産米改良協議会の主催で先に行われた県コンクールに応募した小・中学校生の62作品について審査が行われました。おいしいごはんの魅力を伝える標語とともに描かれた作品は、力作揃いで、ごはんの魅力が今にもキャンパスから飛び出しそうでした。最優秀賞には、江井菜々実（大野小）さんが選ばれ、県コンクールで優秀賞に選ばれた菅野江美（飯豊小）さんには、特別賞が贈られました。

また、作品は、相馬市内のスーパーにも展示され、ごはんの魅力のPRにも一役かかっていました。